

2024 年大軍拡・改憲反対、平和と社会保障を基盤とする社会を

2024年6月22日 愛知県社会保障推進協議会は第44期総会を開催しました。総会では、大軍拡や改憲の動きに反対し、「全世代型社会保障」の名による社会保障大改悪、国民への大幅負担増の押し付けを許さない、職場・地域を基盤とした社保協活動にむけ2024年度方針を決定しました。また、総会には、会場参加代議員 33人と委任状 31人で合計 64人。会場には、代議員 33人、傍聴 7人、顧問 1人、事務局 1人合計 42人が参加しました。



開会にあたって、武田修三社協副議長（左）が挨拶。冒頭に、社保協運動に尽力された3人の方が前回総会以降に亡くなられた、大島良満・西村秀一両顧問、堀勝事務局次長に黙祷を捧げました。つづいて、「2024年元日の能登半島地震は、半年を過ぎても家屋の倒壊などの復興が手付かずだ。過去の震災の教訓が生かされておらず、国の責任で地域の復興を最優先で行う必要がある。新型コロナで疲弊した医療機関は、今回の診療報酬でもマイナス改定となり、非常に厳しい経営状況に陥っている。通常国会が事実上閉会した。政治と金の問題が最大の争点だったが、実効性が皆無に等しい政治資金規正法が成立したほか、共同親権など重大な問題のある法案が次々と成立した。骨太の方針が昨日閣議決定されたが、社会保障削減路線を強化するものとなっている。医療や介護の分野ではこの後も様々な負担増が計画されている。これらの計画が実行されれば、こ



の先、市民県民の生活が総じて悪化することになる。社会保障の改悪を許さず拡充を求める社保協の運動をさらに前進させる必要がある。本日は、各団体の活動交流などを活発に行っていたきたい」と挨拶し、総会議長に堀内陽来氏（名古屋市立高等学校教員組合・左）・伊藤恵子氏（海部津島社会保障推進協議会・右）を選出しました。



引き続き、森谷光夫議長が理事会を代表し、「自民党の組織的な裏金問題が国民の怒りを買ったが、今国会で与党が成立させたのはザル法で、それですらようやく成立できたというような状況だ。昨日は骨太の方針が閣議決定された。大軍拡の一方で社会保障を抑制する明確な方針が示されている。国民の負担は限界だ。ところが政府は更なる国民負担を進めようとしている。6月には診療報酬・介護報酬改定が行われたが、医療では生活習慣病管理料や患者の早期転院などを推し進める内容だ。介護で訪問介護の基本報酬が減らされたことも重大な問題だ。利用者負担増とサービス低下がさらに進められている。

現行の健康保険証の新規発行を12月に中止する方針だが、国民の怒りの声が高まっている。声の高まりを受けて、資格確認書などの施策を打ち出しているが、健康保険証を残せば済むことだ。私たち社保協の役割はますます重要になっている。社会保障を少しでも充実させることが必要だ。今年11月には日本高齢者大会が名古屋で行われる。この成功にも力を尽くしたい。皆さんの積極的

な活動をお願いしたい」と挨拶し、その後の議事を議長に委ねました。

議案提案



- ・「社会保障を中心とした情勢」を澤田和男副議長（左）が報告しました。
- ・「43期活動経過報告・44期活動方針」、「43期会計報告・44期予算」を小松民子事務局長が報告・提案しました。
- ・「会計監査報告」は磯村会計監査の報告を津田氏が代読しました。



質疑・討論



①浅田光治氏（生健会）

生保裁判への協力に感謝したい。署名数については十分ではなかったが、今後も運動を強めたい。大阪高裁の判決の中で「消費者物価指数について確定したものはないので、厚労省の試算でかまわない」との文言があった。これには怒りを覚えた。運動を最高裁に向けて強める必要がある。さらなる協力をお願いしたい。



②高橋浩氏（一宮社保協）

10月20日の自治体キャラバンで、補聴器助成、带状疱疹ワクチン助成をしてほしいと申し入れをした。その結果、带状疱疹ワクチン助成・補聴器助成とも実施されることになった。内容としては不十分なところもあり、これからの運動でさらに充実させたい。带状疱疹ワクチンについて定期接種化に向けて国が具体化を進めるとしていることも歓迎したい。自治体キャラバンで県内自治体の各種制度の実施状況を一覧で出しているが、これが自治体との交渉の際に非常に効果的だと実感している。



③高木強氏（自治労連愛知県本部）

10月に地方自治研の全国大会が愛知で開催される。自治研は、自治体の労働組合の中の研究活動として2年に1回開催している集会だ。自治体で仕事をしていると、国からの指示をこなすだけでも精一杯であるために、住民にとってこの方向がいいのかという視点が失われがちになる。多くの方に自治体の実情などを知っていただく機会にもなるので、ぜひ皆さんにも参加していただきたい。

④榊原利宏氏（尾張旭国保・介護をよくする会）

国保の赤字を解消するために繰上充用を活用する自治体が増えている。県の示す標準保険料率が高過ぎて、尾張旭市もさすがに一気にそこまで上げることはできない状況だ。保険料を抑えるためにやらないと言っていた一般会計からの繰り入れも行うことになった。尾張旭市では、国保税上げるなという署名をやっているが展望が見えてこない。国保税を上げないために何が必要か整理をする必要がある。政策的にも社保協で、交流も含めてやっていく必要がある。自治体職員でもこれだけ保険料が上がることには矛盾を感じているようだ。県の姿勢を変えさせえる必要もあると思う。



⑤山口清明氏（共産党）

国保については、県の役割が重要だ。県は国保に対して以前は補助をしていた。私たちは市町村に対して基金をとり崩しなさいと要望しているが、県にも基金が100億円ある。100億あれば以前の補助は復活できる。県の基金をどうやって活用できるか社保協と研究したい。共産党の県議がいるので、そこもぜひ活用してほしい。

愛知県の介護保険事業計画が策定される。県の試算では 2040 年には介護保険料が 8000 円台になる。さらに 2040 年には介護従事者が 3 万人超足りなくなるとも試算している。こういう議論も丁寧に見ていく必要がある、介護分野は問題が深刻であるために、連携する相手も広がっている。社保協へのお願いとしては、子ども医療費助成制度で 18 歳年度末までの助成を行っていない自治体の運動を応援するような取り組みを行って欲しい。

⑥薄美穂子氏（福保労）

株式会社恵について、相談フォームに多くの相談が寄せられている。施設がなくなると受け入れ先がないという家族の声も寄せられている。愛知県内の恵で働く職員が分会を結成した。皆さんのご支援をお願いしたい。公的責任の問題も問うていきたい。

保育士配置基準の改善は画期的だったが、経過措置があり、このままでは地域によって子どもの処遇に格差が生じることになる。国のお金の使い方を変えなければいけないと思う。



⑦寺田英明氏（愛高教）

子ども医療費無料化は、学校現場でも切実な要求だ。学校でのケガなどに見舞金が出されるスポーツ振興センターという制度があるが、自治体ごとに子どもの負担割合が異なるため請求が複雑になっている。全県一律で無料になると事務手続きが容易になる。

給食費無償化の運動が進んでいるが、今後は高校生の給食無償化も視野に入れてもらいたい。高校生でも家庭の状況などで様々な事情を抱えた生徒がいる。愛知県政は教育にお金を出してくれない。抜本的に教育予算を増やしていく必要がある。



⑧池田幹人氏（医労連）

愛知県立がんセンターの建て替え問題に関して P F I での建て替えが検討されている。県立病院も経営形態の変更を検討しており、実態を把握する必要がある。名古屋市総合リハビリテーションセンターについては、短期間に多くの署名が集まっている。利用者の家族の方も多くの署名を集めてくれており、どれだけ大切な施設かを実感した。名古屋市は、まともに利用者の状況を把握すらしていない。無責任

さに怒りを感じている。



⑨伊藤剛氏（保険医協会）

保険医協会は「現行の保険証を残せ」の運動に取り組んでいる。学習会に講師を派遣し、学習会の参加人数は延べ 1,000 人を超えた。5/26 に行った栄の街頭宣伝には、医師・歯科医師・弁護士などが参加し、1 時間で 85 筆の署名が集まった。国の発表でもマイナ保険証の利用率は 7.73%に留まっている。現在、健康保険法に関する省令を改正するためのパブコメ募集がされており、多くの方に協力いただきたい。

また、保険医協会では、子育て世代へのアンケートを行う予定で、こちらへも協力をお願いしたい。

⑩梅北政義氏（年金者組合）

年金裁判は、最高裁での取り組みを強化してきたが、不当判決が出された。国に対する忖度の裁判だ。社会保障改善については国会でやれというような内容で許しがたい。負けたからといって、運動をやめるわけにはいかない。国にも意見を言っていきたい。政治を変え、私たちの生活を良くすることに取り組んでいきたい。

以上、10名から発言がありました。



まとめ 小松事務局長

10人の方から発言いただいた。社保協の運動が多彩で豊かなものであることがよく分かる内容だった。早速、9/16 国保改善運動交流集会を開催する。最新の情報も手に入れることができる学びの多い企画であり、多くの地方議員にもご参加いただきたい。

本日の討論でも分かる通り、愛知県下には様々な運動があり、社会保障運動を進めるうえで重要な宝物だ。行動することで変化が生まれ要求が前進する。運動を積み重ねる中で、私たちの側にも知恵が溜まってきている。本日寄せられた要望については具体化できるよう検討していきたい。また、本日が締切のパブコメについては今日ぜひやっていただきたい。

11月には日本高齢者大会が27年ぶりに愛知で開催される。この成功に向けてもご協力をお願いしたい。

議案採択・承認すべての議案が賛成多数で採択された。

役員紹介 小松事務局長が役員紹介を行い、拍手で承認された。

総会決議 塚本事務局次長が提案し、賛成多数で採択された。

閉会の挨拶 西尾美沙子副議長・愛労連議長



それぞれの団体や地域からの報告があり、社保協運動の大切さを実感した。社会保障の予算が下がり続ける中で、全ての世代の中で暮らしが圧迫されている。とりわけ子育て世代、高齢者が圧迫されており、私たちがいっそう声を上げていく必要がある。

愛知県では“もう1人保育士を”の運動が国を動かした。こうした声をさらに強めて形にしていきたい。

自民党政治に終止符を打つチャンスが来ている。東京都知事選で蓮舫さんが勝つことが大きな弾みになる。今年は自治

研全国集会や日本高齢者大会が愛知である。成功に力を尽くしたい。

以上、第44期総会は閉会となりました。当日参加いただいた代議員および理事の皆様ご協力ありがとうございました。2024年度もみなさんご一緒にがんばりましょう。

マイナ保険証 Q&A④



マイナ保険証があると良い医療が受けられるってほんと？

飲んでいる薬の情報が見られるの？
です。

ご活用ください↓

<https://youtu.be/UtFdjy6ZySA?si=oEYYV6MpnYOM6Q2M>

